

30. 総合理工学府

(1) 総合理工学府の教育目的と特徴	30-2
(2) 「教育の水準」の分析	30-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	30-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	30-12
【参考】データ分析集 指標一覧	30-15

(1) 総合理工学府の教育目的と特徴

1. 「物質・エネルギー・環境及びその融合分野における環境共生型科学技術に関する高度の専門知識と課題探求・解決能力を持ち、持続発展社会の構築のためにグローバルに活躍できる技術者や研究者となる人材を養成」することを教育目的として掲げている。この目的を達成するため、本学教育憲章の理念に基づき、「世界に通じる研究・開発能力を有する人材を育成するために、教育内容及び方法を整備・改善し、体系的な教育を実施する」という中期目標を設定している。
2. 量子プロセス理工学、物質理工学、先端エネルギー理工学、環境エネルギー工学、大気海洋環境システム学の5専攻で編成されており、総合理工学研究院所属の教員を主体に、先導物質化学研究所、応用力学研究所、グローバルイノベーションセンター所属の教員による協体制の下、教育を行っている。また、産学連携の強化のために連携講座を設けている。修士課程の収容定員328名、博士後期課程の収容定員180名に対し、教授・准教授約115名で教育研究指導に当たっており、十分な教育・研究指導體制が整っている。さらに、東アジアを中心として国際的に開かれたキャンパスを目指しており、留学生の受入れと英語による教育にも力を入れている。このため、総合理工学研究院に Internationalization and Future Conception 部門を設置して外国人教員を積極的に採用するとともに、キャンパスアジアプロジェクト推進室、グリーンテクノロジー研究教育センターと連携して教育を行っている。
3. 本学出身者と他大学出身者の割合は、過去5年間の平均で1:1.3であり、多様なバックグラウンドを持った学生に対して、授業内容、授業方法等できめ細かい配慮をすることにより、学際化、国際化の先進的な例となっている。また、自分の専門分野にとらわれずに学修させる機会を提供するために「学府共通科目」を設けている。さらに、クォーター制をいち早く導入し、バックグラウンドの異なる学生がスムーズに専門教育を受けることができるように工夫している。また、グローバルに活躍できる人材養成の観点から、修士課程ダブルディグリープログラム「エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム」（以降、「キャンパスアジアプログラム」と表記）、博士課程教育リーディングプログラム「グリーンアジア国際戦略プログラム」（以降、「グリーンアジアプログラム」と表記）、及び研究留学生優先配置プログラム「Intellectual Exchange and Innovation Program」（以降、「IEIプログラム」と表記）という英語による教育プログラムに携わっている。これらの結果、総学生数約650名中、約180名が留学生であり、講義等の英語化も進んでいる。このような手厚い教育指導の下、修了生は、世界に通じる研究・開発能力を備えた技術者や研究者として、大学・高等専門学校などの教育機関や一般企業など幅広い分野で活躍している。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（2016年度更新）（別添資料 7330-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（2016年度更新）（別添資料 7330-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7330-i3-1～17）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7330-i3-18～20）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7330-i3-21～22）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 量子プロセス理工学、物質理工学、先端エネルギー理工学、環境エネルギー工学、大気海洋環境システム学の5専攻において、それぞれ、教育目的に即した専門科目群を設けるとともに、全専攻にまたがる共通科目や横断科目、異分野特別演習などを設けて、広い視野を身に付ける工夫も行っている。[3.1]
- 修士・博士一貫の博士課程教育リーディングプログラム「グリーンアジアプログラム」を実施している。このプログラムでは、アジア圏から世界に環境・エネルギーイノベーションを発信できる「理工系リーダー」を育成することが狙いで

九州大学総合理工学府 教育活動の状況

ある。採択から7年間（2012～2018年度）は国からの支援の下に実施し、入コース生は80名であった。2019年度からは九州大学の支援の下、プログラムを継続している。（別添資料7330-i3-23～24）[3.2]

- 総合理工学府は設置（2000年度）から20年ほど経過しており、この間、学術動向に応じた教育プログラムの改善を繰り返してきた。しかし、AIをはじめとした情報科学や、俯瞰的に科学技術を見渡す能力を育成することなどが強く求められるようになってきた。このため、2021年度からの改組を目指して、数年前から準備を進めている。（別添資料7330-i3-25）[3.3]
- 総合理工学府には、九州大学以外の大学や高専専攻科から入学してくる学生の割合が多い（九州大学以外が約60%）。そこで、物質理工学専攻においては、修士1年次前期に履修する科目群として「補完科目」と「基盤科目」をクォーター制で実施しており、修士1年次後期から本格的に始まる専門教育に、すべての学生がスムーズに取り組むことができる工夫を行っている。[3.4]
- 各専攻においてカリキュラムマップや科目ナンバリングを行い、履修モデルの詳細を専攻オリエンテーションにおいて説明している。総合理工学府設立から約20年間、履修モデルの改良や社会のニーズへの対応を行ってきた。しかし、近年の情報化などの社会の変化に対応するため、2021年度からの学府改組を目指して、新しい履修モデルの構築を進めている。（（再掲）別添資料7330-i3-25）[3.5]
- 現在、総合理工学府には、3種類のダブルディグリープログラムが存在する。上海交通大学・釜山大学校との修士課程ダブルディグリープログラム、釜山大学校との博士後期課程ダブルディグリープログラム、台湾科技大学との修士課程ダブルディグリープログラムであり、それぞれの履修モデルを図で示す。キャンパスアジア事務局とIFC部門の教員をはじめ、総合理工学府の全教員と連携して、一人一人の履修モデルの最適化を行っている。（別添資料7330-i3-26～30）[3.5]
- 大学の世界展開力強化事業の第2期（2016～2020年度）として、上海交通大学・釜山大学校と連携して修士課程ダブルディグリープログラム「キャンパスアジアプログラム」を実施している。キャンパスアジアプログラムの第1期（2011～2015年度）から2019年9月までの間に、3大学合わせて124名（うち九大生47名）のダブルディグリー取得生を輩出した（毎年20名程度）。このうち2016年度以降のダブルディグリー取得生は75名である。これまでに本事業に参加した学生はのべ2000人を超える。第2期の中間評価（2018年）ではS評価を得た。また、釜山大学校と博士課程ダブルディグリーを開始するための協定を2019年に締結した。さらに、台湾科技大学と修士課程ダブルディグリーの協定を2019年に締結しており、2020年度から学生を受け入れる予定である。（別添資料7330-i3-31）[3.0]

＜必須記載項目 4 授業形態、学習指導法＞

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7330-i4-1～2）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 7330-i4-3）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7330-i4-4）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 7330-i4-5）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 博士課程教育リーディングプログラム「グリーンアジアプログラム」において、研究力・実践力・俯瞰力・国際力・牽引力を併せ持つ理工系リーダーの育成プログラムを開発し実施してきた。また、半年間の留学を伴う修士課程ダブルディグリーの「キャンパスアジアプログラム」によって、国際力を強化するための教育を実施してきた。さらに、サマースクールやセミナーなどに、ダブルディグリー生以外の学生の参加も奨励してきた。グリーンアジアプログラムとキャンパスアジアプログラムの学生は総合理工学府全体の5%程度であり、以前に比べて日本人学生の英語による発表能力が向上していると釜山大学の教員から指摘を受けるなど、国際力のレベルアップが総理工全体に波及している。
（別添資料 7330-i4-6） [4.1]
- インターンシップに基準を設けて単位化したり、異分野特別演習（学生本人の主たる研究とは異なる分野の研究室において半年以内の実習を受ける）を実施することにより、実践的学修プログラムの充実を図っている。 [4.2]
- 必要に応じて遠隔講義を行う体制を整えた。 [4.3]
- 研究室は、原則として2名以上の教員（例えば、教授1名、准教授1名など）で運営することとし、1名の教員しかない場合は、副指導教員制をとって、複数の教員によって指導する体制を確立している。 [4.4]
- 総合理工学府においては、学位論文執筆に関わる学生の教育研究活動の一環として、国際研究集会への参加、および、海外インターンシップのための海外渡航を支援する独自の支援事業を行っている。また、RA や TA への登用を積極的に引き、キャリア開発を支援している。（別添資料 7330-i4-7） [4.5]
- 「グリーンアジアプログラム」においてはシニア教員（メンター）、若手教員

九州大学総合理工学府 教育活動の状況

(チューター)、海外メンター及び技術メンターからなる指導・ケアユニット(MCU)が一人の学生に対して一貫して指導・支援を行う制度となっている。

(別添資料 7330-i4-8) [4.5]

- 「グリーンアジアプログラム」においては学位取得までに5段階のステージゲートを設定し、学生がどのステージに到達しているか明確に見えるように工夫している。また、このプログラムの学生の要請により、それまで「A、B、C」の3段階であった成績評価を「A+、A、B、C」に変更し、自身の理解度・達成度のレベルがより分かりやすくなるようにした。なお、この成績評価の変更はグリーンアジアプログラムのみではなく、総合理工学府全体に適用した。

(別添資料 7330-i4-9) [4.7]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7330-i5-1~7)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7330-i5-8)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 7330-i5-9)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 7330-i5-10)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 総合理工学府のホームページに「なんでも相談室」のページを設置し、ハラスメント・学務・履修・奨学金などの相談に対応する窓口を明確に示している。

(別添資料 7330-i5-11) [5.0]

- 2012年度から、総合理工学府の留学生を対象に、隈利實国際奨学金が設立された。この奨学金は、株式会社西部技研の創業者隈利實氏を記念して、総合理工学府の留学生に学費の援助を行うことで優秀な技術者を育てることを目的としている。これまでに47名の留学生に対して、総額66,375千円の奨学金を支給した。

(別添資料 7330-i5-12~14) [5.0]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 7330-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7330-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 7330-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 九州大学大学院の成績評価はA(優)、B(良)、C(可)、D(不可)の4段階が一般的であるが、総合理工学府は、より細かい成績評価を行って成績優秀者のモチベーションを高めるため、A+(秀)、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)の5段階へと変更した。なお、A+は100点満点で90点以上に相当する。[6.0]
- 総合理工学府においては、毎年3月に修士2年生を対象として、優秀な成績を修めた学生を各専攻から1名選び、修了式で表彰している。また、2015年度からは留学生の増加に対応して、9月卒業の修了生についても同等に優秀な成績を修めた学生を選んで表彰している。さらに、各専攻に優秀な修士2年生を数名選んで専攻賞を授与している。（別添資料 7330-i6-4）[6.0]

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7330-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 7330-i7-3）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 7330-i7-4～6）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 7330-i7-7）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 7330-i7-8）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ディプロマポリシーを明文化し、ホームページに掲載している。また、留学生に対応するため、英語での掲載も行っている。（別添資料 7330-i7-9～10）[7.2]
- 環境エネルギー工学専攻においては、博士学位取得要件やそこに至る道のりの

九州大学総合理工学府 教育活動の状況

詳細をわかりやすく記載した文書を作り、日本語と英語の両方を専攻のホームページに掲載している。特に、留学生にとっては日本の大学の博士学位取得要件はわかりにくいものであり、その明文化は留学生の研究意欲を高めるものとなっている。今後、他の専攻についても同様の文書の作成を進める予定である。（別添資料 7330-i7-11） [7.2]

- 学位論文の審査に関わる手続きをホームページに掲載し、必要書類をダウンロードできるようにしている。留学生用の英語のホームページにも掲載している。（別添資料 7330-i7-12～13） [7.2]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7330-i8-1）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7330-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3（データ分析集）
- ・ 指標番号 6～7（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7330-i8-5）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年オープンキャンパスを行い、入試説明会や研究室見学を通して他大学・高等専門学校専攻科の学生への説明を行っている。（別添資料 7330-i8-3） [8.1]
- 海外からの質の高い留学生を受け入れるため、外国人向けのホームページを充実させ、広く募集を行う方式を採用したため、博士課程教育リーディングプログラム「グリーンアジアプログラム」や留学生優先配置「IEI プログラム」において、定員に対して総合計が、3～5 倍の応募が得られた。（別添資料 7330-i8-4） [8.1]
- 在校生の保護者に対して、オープンキャンパスにおける説明会において博士課程進学の特長などを説明する機会を設けたり、留学生の確保を積極的に行うなど、博士後期課程の学生確保に努めることにより、2016 年度から 2019 年度までの充足率の平均が 92%と、90%を超える水準になった。 [8.2]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料 7330-i4-4）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修士課程ダブルディグリープログラム「キャンパスアジアプログラム」、博士課程教育リーディングプログラム「グリーンアジアプログラム」、留学生優先配置「IEI プログラム」などの国際化を積極的に進めた結果、2019年10月1日現在の留学生の割合は、修士課程が17%、博士課程が55%、全体で28%となっている。（別添資料 7330-iA-1）[A. 1]
- 修士課程ダブルディグリープログラム「キャンパスアジアプログラム」を上海交通大学・釜山大学と協力して実施している。2019年9月までに、3大学合わせて124名のダブルディグリー取得生を輩出している。このうち2016年以降のダブルディグリー取得生は75名である。また、これまでに本事業に参加した学生はのべ2000人を超える。2016年9月5日に工学教育賞（文部科学大臣賞）を受賞した。第2期の中間評価（2018年）ではS評価を得た。
（（再掲）別添資料 7330-i3-22）（別添資料 7330-iA-2）[A. 1]

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年5月にオープンキャンパス、8月に公開講座を行っている。公開講座の受講者は2010年ごろから増え始め、最近では募集人員を70名に増やしているが毎回定員以上の応募があり好評を得ている。物質・エネルギー・環境のいずれかから最先端のトピックスをわかりやすく説明する講義となっており、講義の後は毎回のように多くの質問がある。また、リピーターも多く、2016年度から2019年度までの4回の開催のうち、4回とも受講した者が22名であった。
（（再掲）別添資料 7330-i8-3）（別添資料 7330-iB-1～3）[B. 1]
- 留学生と連携して、周辺の高校、中学校、市役所への行事に参加し、地域の国

九州大学総合理工学府 教育活動の状況

際化に貢献している。特に、高校・中学校での英語による研究会や発表会においては事前の打ち合わせから講評に至るまで重要な役割を担っており、周辺地域の中高生に対して貴重な経験を提供している。（別添資料 7330-iB-4）[B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年、5名程度の他大学・企業の有識者を総理工セミナーに招聘し、学府の教育体制やキャンパスアジアプログラムの活動について意見を聴取する外部評価を行っている。外部評価の結果は、教授会で説明し、必要に応じて適切な会議に諮って改善を進めている。（（再掲）別添資料 7330-i3-18～19）[C.2]
- キャンパスアジアプログラムでは、スプリングセミナー、サマースクール、Cross Straits Symposium on Materials, Energy and Environmental Sciences 国際会議など、3大学（九州大学、釜山国立大学校、上海交通大学）の教員が集まる機会に国際PDCAミーティングを開催し、今後の運営方法や将来構想から、各学生の単位取得状況に至るまで議論をして解決する努力を絶えず行っている。（別添資料 7330-iC-1～3）[C.2]

<選択記載項目Z その他>（安全衛生教育）

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 理工系の修士・博士課程の教育においては、高度な実験を行うため、その安全を確保することが非常に重要である。総合理工学府では、大学が法人化されたことを受けて、さらなる安全の確保が最優先課題であるとの認識のもと、講義形式の安全衛生教育、保険への加入、各研究室での安全教育を、実験を始めるための前提条件としてすべての学生に義務化している。これにより、これまでの間、重大な事故等は発生していない。（別添資料 7330-iZ-1）
- 簡易版の安全マニュアルと詳細版の安全の指針を作成している。また、それぞ

九州大学総合理工学府 教育活動の状況

れの英語版も作成し、英語での安全教育も行って留学生にも対応している。

(別添資料 7330-iZ-2～5)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7330-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7330-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
（別添資料 7330-ii1-3）※法人独自資料添付
- ・ 指標番号 14、16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7330-ii1-4）
- ・ 指標番号 15、17～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 指標 22 によれば 2016 年度の博士後期課程卒業者に占める就職者の割合は 64.9%となっている。しかしながら、修了者数 37 名のうち、10 名が書類未提出（未就職とカウントされる）であった。そこで、独自に修了者全員について就職状況を追跡調査したところ、最終的な就職者の割合は 94.6%であった。その後の年度の就職率も堅調に推移している。博士後期課程修了者は修士課程修了者と異なり、就職時期にばらつきがあるため、就職に関する書類を提出しない者の割合が高く、本当の就職者の割合はデータ分析集に掲載されている値（5月頃に集計）とは大きく異なる。（別添資料 7330-ii2-1）[2.0]
- 留学生は自国に戻って就職をする者がほとんどであり、博士取得がキャリアアップにつながっているようである。一方、日本国内での就職を希望する留学生の割合が高く、課外の日本語の講義を行うなど、できる範囲で応援しており、数は少ないが、実際に日本国内で就職する者もいる。別添資料は日本語コースに対するアンケートの結果であり、2016 年度は回答者数 51 人中、日本で就職を希望する学生 36 名、希望しない学生 15 名。2018 年度は回答者数 33 人中、日本で就職を希望する学生 14 名、希望しない学生 6 名、未定の学生 13 名と、半数以上の留学生が日本での就職を希望していた。（別添資料 7330-ii2-2～3）[2.0]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 7330-iiA-1~14)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- アンケート調査に加えて、プログラムごとに毎年、修了する学生との懇談会の場を設け、講義・研究活動・就職・施設・設備などについての意見を収集し、改善につなげている。改善例としては、副指導教員制の導入、国際会議や国際インターンシップの補助制度、英語による講義の充実、留学生のための日本語クラスの増加、博士学位取得要件の明文化、暗くて危険な個所をなくすための夜間のキャンパス内照明設備増設や樹木の伐採、老朽化したトイレの改修、ハンドドライヤーの設置、女子休憩室の設置、駐輪場の増設、伊都キャンパスにおける企業の就職合同説明会への連絡バスの増便、自動販売機の増設、グラウンドの整備、講義室の机・いす・電灯設備の改善、図書の実質、資料・看板・電子メールなどの英語併記、英語ホームページの改善、などである。[A. 1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7330-iiB-1~2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修士・博士一貫の「グリーンアジアプログラム」は修了に必要な単位数が77単位と、極めてハードなプログラムであるが、修了生のアンケートによると、「修了してからの評価」に対して「期待より良かった」と「期待通りだった」を合わせて87%と、高く評価されていることが分かった。また、参加前に比べて、修了後に様々な能力が向上したことを実感している学生がほとんどで、プログラムの効果が高かったことが分かった。[B. 1]
- 修士課程ダブルディグリーの「キャンパスアジアプログラム」においては、ダブルディグリー取得生が、就職後に、プログラムで培った能力や経験が活かされているかどうか、アンケート調査を行っている。その結果、このプログラムに参

九州大学総合理工学府 教育成果の状況

加して英語コミュニケーション力が伸びたこと、就職活動または就職後の仕事で英語コミュニケーション力が役に立ったこと、異文化についての理解が進んだことなど、高く評価されていることが分かった。また、今後、就職先の企業を訪問して、修了生の上司からの評価を受け、プログラムの改善に資する予定である。

[B. 1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。